

巻頭言



## 健康寿命延伸への貢献に向けて

For contribution to extension of healthy life expectancy

明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野 大川周治

2019-2020年度の公益社団法人日本補綴歯科学会理事長を拝命いたしました。この場をお借りして改めて感謝の意を表します。

現在、日本では人口構造の変化（人口減少と少子高齢化）が急速に進展しています。本学会発足後100年になる2035年には、80歳以上人口が1,600万人を突破し、100歳以上人口が25万人に達します。そして、65歳以上人口がピークを迎える2040年を経て、今から36年後（学会発足後120年）の2055年には総人口が1億人を割り込み、80歳以上人口が1,700万人（総人口の約17%）に、100歳以上人口が2035年の2倍となる50万人を突破すると推定されています<sup>1)</sup>。日本における、この急激な人口構造の変化は、本学会に少なくとも2つのことを問いかけていると思います。

1つは在宅における補綴歯科治療（以下、在宅補綴）の再考、もう1つが補綴歯科治療による健康寿命延伸への貢献です。在宅においても、通常の診療室と同じ方法で補綴歯科治療を実践すると、患者術者ともかなりの負担と労力を要することとなり、補綴処置の質に悪影響を及ぼしかねません。在宅補綴という新しい治療術式を確立することが求められています。また、在宅補綴は大規模災害時の食支援にも繋がるという重要な要素を有しており、早急に具体策を検討する必要があります。後者の健康寿命延伸への貢献においては、食力（捕食、咀嚼し、嚥下する力、すなわち食べる力）を客観的評価により数値化して明示するとともに、食力の維持向上を図ることが重要です。

本学会は発足後、顎口腔機能に関する数多くの研究を遂行してきました。現時点（2019年3月16日）での本学会雑誌（和文、英文）に掲載された論文（総数：5,268編）の中で、「咀嚼」で検索される論文数は2,505編（約48%）、「咬合」に関しては実に4,975編（約94%）でした。これらの結果は、言うまでもなく歯科補綴学における咀嚼、咬合の重要性を裏付けるものです。咬合、咀嚼の分析、解析は同時に顎口腔機能の検査・診断に繋がるものであり、歯科補綴学を探究してこられた多くの本学会会員の方々が、顎口腔領域の機能評価のあり方を模索されてきた証だと考えています。その結果、2012年に咀嚼機能検査が先進医療に認可され（技術名：有床義歯補綴治療における総合的咬合・咀嚼機能検査）、2016年4月には保険医療（検査名：有床義歯咀嚼機能検査）として導入されました。本学会のみならず、歯科界にとっての長年の悲願が達成されたといっても過言ではありません。さらに2018年には口腔機能低下症の診断基準の1検査項目として咀嚼能力検査（グルコースの溶出量測定）、咬合力検査、舌圧検査、嚥下スクリーニング検査などが採用、導入されました。これらの検査項目は、まさしく食力を数値化するものであり、全身状態を術前術後に血液検査、尿検査等によりチェックするのと同様に、歯科においても食力に関する検査を治療前治療後に行うことが求められています。

厚生労働省が、顎口腔領域の主たる治療目標を形態の回復・改善から機能の回復・改善へと舵を切ったのはご存じのとおりです。オーラルフレイルの予防が口腔機能低下症やフレイルの予防に、ひいては要介護状態になる

明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野

Division of Removable Prosthodontics Department of Restorative & Biomaterials Sciences, Meikai University School of Dentistry

ことの予防に繋がること示されてきています<sup>2,3)</sup>。さらに高齢者のみを対象とするのではなく、小児、若年者そして成人を含めた全世代全年齢層において、食力を客観的評価により数値化することで、食力のわずかな変動を捉えることが肝要です。食力の数値化により補綴歯科治療の質を担保することが可能となり、質が担保された補綴歯科医療の実践により、食力の維持向上が達成されれば、健康寿命の延伸に貢献できると考えています。

本学会は、内閣府の承認を得て、2019年4月1日に修練医・認定医・専門医制度をスタートさせました。学際的な発展深化とともに臨床技能の維持向上を達成しうる環境の整備が本学会に課せられた使命だと考えています。より多くの先生方に、補綴歯科認定医・修練医の取得・更新、さらには補綴歯科専門医の取得・更新を基軸として研鑽されるとともに、食力を維持向上させる補綴歯科治療の実践に向けて、ご尽力を賜りたいと存じます。これまでと同様に、各先生方のご理解とご支援の程よろしくお願い申し上げます。

#### 文 献

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所：人口問題研究資料第337号「日本の将来推計人口 —平成29年推計の解説および条件付推計—」(2018)
- 2) 平成29年度神奈川県「口腔ケアによる健康寿命延伸事業」調査報告書
- 3) 公益財団法人8020推進財団：第13回フォーラム8020報告書「健康寿命延伸に寄与する歯科医療・口腔保健 —エビデンスとそれに基づく健康政策の推進—」(2015)